

公益社団法人 日本天文学会 理事会議事録

日 時：2023年9月19日（火）16時30分～18時00分

場 所：名古屋大学（オンライン開催）

出席理事：井田茂、野村英子、百瀬宗武、勝川行雄、町田真美、鈴木竜二、酒向重行、安東正樹、津村耕司、廿日出文洋、大朝由美子、金田英宏、吉田直紀、楠瀬正昭、野澤恵、石川遼子、山村一誠
（野澤は途中からの出席となった）

出席監事：松尾宏、山田亨

また、佐藤事務長、黒岩事務長補佐、田口谷事務長補佐が出席した。

I. 確認事項など

I-1. 議事に先立ち、理事総数17名のうち出席者が16名で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。また、オンライン会議システムにより出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同じく適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。

I-2. 前回議事録の確認

資料2に基づき、前回（2023年6月11日）の理事会議事録が報告され、承認された。

II. 議題

日本天文学会の各議題は、井田会長より提案され、各担当理事に詳細説明を指示した。

II-1. 新規加入者および移籍（準 → 正）の承認（資料3、町田）

2023年6月12日～2023年9月11日までに正会員入会申請120名、準会員入会申請16名の申請があり、賛成多数で承認された。

II-2. PASJ 編集顧問の承認（資料4、安東）

編集顧問として長峯健太郎（大阪大学）氏の推薦が提案され、賛成多数で承認された。

II-3. 天文教育委員会の退任に関して（資料5、大朝）

委員1名の退任の申請と10名体制に変更になる旨が報告された。

II-4. 研究奨励賞の内規改正について（資料6、勝川）

研究奨励賞の対象となる方の不利益を排するため、内規改訂の移行期間に関する附則を追加することが提案され、賛成多数で承認された。

III. 報告

III-1. 移籍・退会等の報告（資料2、町田）

2023年6月12日～2023年9月19日までに正会員退会4名、準会員退会4名があったことが報告された。

III-2. PASJ 編集委員会からの報告（資料4、安東）

国際会議（ICRC 於名古屋、ARPIM2023 於郡山）でブースを出展したこと、出版ライセンス・掲載料の新システムが導入されたこと、増刊特集号の出版費が不要になったこと、本件に関連する契約書の更新は必要がないことが報告された。

III-3. 天文教育委員会からの報告（資料 5、大朝）

(i)天文教育フォーラムを年会会期中にハイブリッドで行うこと、(ii)講師紹介プログラムで 1 名の紹介があったこと、(iii)監修者照会プログラムで 4 件の紹介があったこと、(iv)講師・監修者紹介システムの一部変更を行うこと、(v)男女共同参画委員会と協働し女子中高生夏の学校へ協力したこと、(vi)IAU OAE の天文教育コーディネーターにより OAE 天文用語集の各項目から日本天文学会による天文学辞典の該当項目へリンクすることと和訳に替える案が検討されていることが報告された。

III-4. 年会ハイブリッド開催タスクフォース報告(資料 7、野村)

これまでのハイブリッド開催の状況（技術面・収入面）を整理したこと、名古屋大学での年会終了後にも、アンケートなどを行う予定であることが報告された。

III-5. 男女共同参画学協会連絡会の正規加盟学協会への移行について(資料 8、石川)

男女共同参画学協会連絡会の規定改定により、「オブザーバー学協会会員」から「正式加盟学協会会員」に移行することが報告された。幹事学会(1 年任期)の際には、男女共同参画委員会のみでは運営できないため、天文学会内で協力が必要となることが報告された。

III-6. 年会実行委員会からの報告（資料 9、廿日出）

(i)秋季年会の進行状況が報告された。会員限定で直前のオンライン参加申し込みを受け付けている。年会終了後にオンライン開催へのフィードバック等のアンケート実施予定である。(ii)2024 年春季年会(3/11 月-15 金)を準備中であり、開催方法(3/11, 12 はハイブリッド開催で企画セッションと受賞記念講演、3/13-15 はオンラインで通常セッション)は 10 月中旬までに決定する予定である。(iii)2024 年秋季年会(9/11 水-13 金)の準備状況が報告された。

III-7. 年会の進捗状況報告(資料 10、金田、吉田、楠瀬、野澤)

(i)2023 年秋季年会の進捗状況を報告した。(ii) 2024 年春季年会の準備状況の報告があった。東京大学は理学系研究科の施設のみを用いた開催となるため、現地開催とオンライン開催となっている。授賞式、ジュニアセッションなどの開催方法を検討中であること、対面開催時は保育室が開催されること、多数の企画セッションの応募を期待する旨が報告された。教育フォーラムは現地開催を希望することが伝えられた。(iii)2024 年秋季年会は 9 月 11 日-13 日に行うこと、懇親会は行わないこと、会場の確保状況などが報告された。(iv)2025 年春季年会は、3 月 16 日 - 20 日の日程で、市民会館を会場に開催する予定であることが報告された。(v)今後の年会の開催形態に関して議論を行った。会場の確保とハイブリッド開催の準備が難しく、持続可能な年会開催方法を検討する時期にきていることが共有された。

III-8. 月報編集委員会からの報告（資料 12、津村）

9 月 7 日に、Covid-19 後初めて対面での編集会議を行った。オンライン開催よりも効率が良い事がわかったため、今後は年に 2 回程度は対面開催を行う。天文月報の広告件数が減少傾向にあることを踏まえ、天文学会として新規の広告主を募ることの必要性が議論された。各賞受賞者の受賞記念記事の掲載を行っているが、天文教育普及賞は、第 3 回(2020 年度)以降の受賞者への執筆依頼を行っていなかったため対応を検討中であることが報告された。

III-9. 「シリーズ現代の天文学」の運用・収支に関して(資料 11、勝川/鈴木)

天文学会 100 周年記念事業である「シリーズ現代の天文学」の第 2 版、および英語版に関する経緯とこれまでの収支に関して報告された。理事が役職指定でワーキンググループに加わるなどして、理事会とワーキンググループのコミュニケーションを改善することが議論された。今後、実務理事会で対応を協議することにした。

III-10. 会長挨拶について（野村）

公開講演会、記者会見などの会長挨拶は、会長の都合がつかない場合は、副会長などが適宜対応することが確認された。

III-11. その他（勝川）

来年度の事業計画は、12月の理事会の議事となるため、事業計画の準備を各委員に依頼することが報告された。

III-12. その他：

特になし。

[資料リスト]

資料1 理事会出欠表

資料2 公益社団法人日本天文学会理事会（2023年6月13日）議事録（案）

資料3 加入者の承認、移籍の承認・報告、退会の報告

資料4 PASJ編集委員会からの議題と報告

資料5 天文教育委員会からの報告

資料6 日本天文学会研究奨励賞内規の改正について

資料7 年会ハイブリッド開催タスクフォース報告

資料8 一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会 オブザーバー学協会会員から正式加盟学協会会員への移行について

資料9 日本天文学会理事会 2023年9月 年会実行委員会活動報告

資料10 2024年秋季年会について

資料11 「シリーズ 現代の天文学」の運用について

資料12 天文月報編集委員からの報告

2023年9月19日

会 長：井田 茂 印

副会長：野村 英子 印

副会長：百瀬 宗武 印

監 事：松尾 宏 印

監 事：山田 亨 印